

厚生福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2020
 ©誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

日瑞関係余話 その3

日本は、スウェーデン(瑞典)と長きにわたり学術文化や政治経済、保健医療福祉の各方面で友情を紡ぎ、友好協力関係を維持してきた。しかし、決して忘れてはならないほろ苦い事柄もある。

その一つは、ノルウェーの独立と日本の早期承認である。何故、ノーベル平和賞はオスロで授与されるのかとよく聞かれる。アルフレッド・ノーベルは1815年以来、同君連合でスウェーデンとなっていたノルウェーのオスロにおいて両国民の和解を祈って授与することとしたのである。ノルウェーは1905年に突然一方的に独立宣言を行い、スウェーデンとは厳しい緊張関係が続いたが、スウェーデン国王と政府の努力で国民の反発

元・駐スウェーデン・渡邊芳樹
 特命全権大使



を収めてようやく独立が承認された。この間、日本はスウェーデンの了解もなく独立宣言したノルウェーを支持したとしてスウェーデンの反発を買った。今日でもスウェーデン外交関係者が非公式の場でふと口にする苦い経緯である。北欧諸国の間にも複雑な事情がある。

もう一つは、首都ストックホルムの目の前のオランダ諸島の帰属問題と高名な新渡戸稲造氏の関係である。19世紀初めにフィンランドがスウェーデンからロシアに割譲されロシアの行政区画とされていた同諸島に関して、1917年のフィンランド独立に伴いその帰属をどうするかが問題となった。同諸島住民の95%以上がスウェーデンへ

の併合を希望していたが、国際連盟で協議されることになった。その際、活躍したのが新渡戸稲造事務次長である。結果は、同諸島はフィンランドに帰属する、住民の言語・自治を尊重するなどフィンランド側が満足する決着とされた。スウェーデン側も冷静に受け入れ評価しているものの、当時は新渡戸稲造氏の評価にも関わる問題となった。筆者が大使として直接関わったのは今日の尖閣諸島関係である。わが国は尖閣諸島に関し断固として領土問題の存在を否定し、わが国固有の領土であるとする立場からスウェーデンにも理解を求めるが、スウェーデンは態度を明確にせず国際連合における協議を示唆する。非公式の場でそれとなく援用されるのがこのオランダ諸島帰属問題の処理であった。

やはり外交は歴史であることを痛感させられる。